

旭医大・及川医師、南極へ〜東川中生徒と南極中継も

国立極地研究所第56次越冬隊として町内から初の南極観測隊員が誕生しました。旭川医科大学病院勤務の医師、及川欧さん(51) Ⅱ南町2丁目Ⅱ。隊員の医療サポートと極寒冷地医療の研究を進めることになりました。11月25日に日本を出発、12月25日から2016年正月ごろの間に南極・昭和基地に到着予定です。

派遣期間は2018年3月まで1年4カ月間。来年夏ごろをめどに、南極基地と東川中学校をインターネットで結んで交信中継をする計画も。

慢性期リハビリテーション科医師。パーキンソン病などの難病、手足のしびれ、慢性期の療養型治療の専門医です。「越冬中の隊員が寒さの中でどんな変化をするのか、閉鎖空間でどんな体調変化をするかを観察研究し、寒冷地医療、高齢者リハビリテーション医療、スポーツアスリートの体調管理法



などに生かしたい」。研究テーマは、①東京医

科歯科大学との共同研究として、口腔

(こうくう)内の衛生状態からストレス、栄養状態を観察し、個々の隊員に健康状態を知らせる。口腔内の衛生状態を観察して、未病の状態から病気発生の将来リスク予測②交感神経、副交感神経の電位差を計測することで、隊員のストレス状態検査と自律神経異常を判定③ストレス解消のストレスイレーサー治療の効果検証」との大きく3つ。

「南極基地」という極端に寒く閉鎖的環境に行くことで、寒冷地医療を極めることができる。極寒の地の経験を北海道の医療に役立てたい」という希望がかないました。

にぎやかに文化芸能発表会

11月3日、農村環境改善センターで、第44回町民総合文化祭芸能発表会を開きました。

午前、午後の2部構成。午前の部は、旭川福祉専門学校の学生が童話の世界のステージを楽しく見せました。今年も影絵「ピノキオ」、オペレッタ「青い鳥」と動物の手影絵、ハンドベル演奏。子どもたちは舞台に見入ってみんなくぎ付け。



初登場した手品

今西勝志先生の手品披露と見ごたえあるステージが続きました。

期間中、文化ギャラリーでは、盆栽、書道、写真、陶芸、絵画、編みもの加工、羊毛加工など、町内で活動している各種文化サークルの作品展、老人保健センターでは陶芸体験、東川小では幼児、児童、生徒の音楽の集い、囲碁会館で全町囲碁大会をそれぞれ開きました。

上川中央部8町を巡って芸術祭開く

11月8、9の両日、上川管内文化団体連絡協議会、同中央部文化団体連絡協議会(藤野智恵子会長)主催の第38回上川管内道民芸術祭兼第42回上川管内中央部芸術祭が農村環境改善センターと文化ギャラリーで開かれました。芸能発表は中央部8町から19団体が出演しました。今年で結成30周年を迎

えた大正琴愛好会の琴明会(安原明江代表、18人)は、トップを切って出演。15人が「みかんの花咲く丘」「さらば恋人」など懐かしい4曲を合奏しました。町内からは、日本舞踊の岳加代会、羽衣太鼓保存会も出場してステージを盛り上げました。

趣味の作品展示は、文化ギャラリー

会場に8町から出店の写真、切り絵、書道、盆栽などがずらりと並び、レベルの高さを見せていました。

